

令和6年度 介護予防・日常生活支援総合事業研修会（3/27 開催）

アンケート結果

回答数 44名（研修会参加者数82名）

回答率 53.7%

【1】所属について

所属	回答数	割合
居宅介護支援事業所	20	45.5%
地域包括支援センター	18	40.9%
通所型サポートサービス事業所	3	6.8%
訪問型サポートサービス事業所	1	2.3%
その他(吹田市社会福祉協議会)	1	2.3%
その他(吹田市認知症地域支援推進員)	1	2.3%
総計	44	

【2】職種について

職種	回答数	割合
主任介護支援専門員	17	38.6%
介護支援専門員	10	22.7%
社会福祉士	9	20.5%
保健師	3	6.8%
介護福祉士	2	4.5%
看護師	1	2.3%
その他(理学療法士)	2	4.5%
総計	44	

【3】吹田市の介護予防・日常生活支援総合事業の取組について理解できましたか

選択項目	回答数	割合
よく理解できた	26	59.1%
まあまあ理解できた	17	38.6%
知っている内容だった	1	2.3%
あまり理解できなかった	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%
総計	44	

【4】本日の研修会の内容で、印象に残ったキーワードと選んだ理由について入力してください。

印象に残ったキーワード	キーワードを選んだ理由
今後、高齢化率が急速に増加する	介護保険まで必要のない(元気な高齢者)も増えてくると思った。その方々のサポートも必要だと感じました。
総合事業の対象について	介護予防ケアマネジメントの在り方についてはなるほどとは感じました。
吹田市高齢者安心・自身サポート事業	介護予防ケアマネジメントの在り方がよく理解できました。
適切な介護予防ケアマネジメント推進	本人の意欲を引き出し、自ら実施できるような支援の重要性を再確認できた。
本人の強みを生かしやりたい事をできるように支援すること	相談時、まず困っている事や出来なくなった事、やってほしい事から話される場面が多いです。つい困っている事を何とかしようと考えてしまいますが、本人が出来る事や強みを聞き取り、入口の支援できちんと自立支援について話が出るように自分自身の聞き取る力を付けていきたいと思いました。
自立した生活の支援につなげる	介護保険サービスだけではなく、色々な社会資源の利用なども組み合わせて支援を考えていく事がこれからは必要だと思いました。
どうすれば、本人が自立して生活することができるようになるのか	様々な視点から本人の自立した生活を支援する必要があると改めて感じたため
自立支援	自立支援が大切だと思ったからです。
介護予防・自立支援	吹田市の高齢者の状況（データ）を見て、さらに予防の取り組みが必要と感じた。
ヘルパーによる対応の必要性の見極め	要支援の利用者で、お風呂掃除に来てほしいと言われる方への対応について考えていた時だったので、しっかり見極めたいと思ったから。
ヘルパーによる対応の必要性についてケアマネが見極め	ケアマネジャーによって対応が違うといけないので、ヘルパーによる支援が必要な方と必要ではない方の見極めの基準を定めていただきたいと感じました。
ケアマネの見極め	確かに当初は必要だったが、その後のアセスメントで継続の必要性があったのかの見極めが出来ていたのかと反省した。
ヘルパーはお手伝いではない	昔から言い古された言葉だが、「ヘルパーはお手伝いではない」を選んだ理由は、利用者自ら行う能力がありながらも敢えてヘルパーに頼んで何でもかんでもやってもらい、人にやってもらって楽を得る代わりに自らの健康状態を害することにつながり、フレイル状態に陥っていくおそれが生じてくるという意味で、非常に重要なキーワードと思った。
介護予防ケアマネジメント	サービスにつなげるだけではなく、その方の状況や思いなどにも寄り添って、元気になってもらうための支援をしていきたいと思ったからです。
地域住民主体	介護サービス以外で 地域住民の方が主体的に取り組んでいることが沢山あり それをなかなか私達ケアマネが発信出来ていないことがあるように思っています 利用者の自立支援も考え地域と協力して行きたいと感じました

健康寿命の延伸	吹田市の高齢化率が 2050 年にピークを迎えるため、現段階から健康寿命の延伸や介護予防に対する取り組みを積極的に行なう必要があるため
フレイルの可逆性	買い物支援などヘルパーで全面的にしている事が多く、どのようにして高齢者自身の自立を促したら良いか考える機会になりました。
能力に応じた	高齢者の能力や可能性を摘み取ってはいけないと思いました。
はつらつ元気手帳	はつらつ元気手帳を目にした事が無かったので、地域包括に行った時に内容を見せて貰おうと思った。内容によっては利用者様にも配りたいと思います。
訪問型短期集中サポートサービスの利用実績。自立の比率の高さ。	安易に予防のためにリハビリデイサービスという発想にするのではなく、リハビリデイに行くにしても、その課題などを明らかにするためには、訪問型短期集中の介入の意味はあると感じました。 アセスメントとその共有の必要性を日々感じています。
訪問型短期集中サポートサービス	吹田市より専門職の方が定期的に訪問してもらい状態把握してもらえると本人のモチベーション高まりますし、見てもらえている安心感にも繋がると思います。
訪問型短期集中サポートサービス	高齢になると自立などあり得ないと思っておられる方が多いが多様な選択肢を組み合わせて自立支援を促進していけたらと。もっと住民に周知していけたらと思う。
短期集中サポサービス 自立 90%	短期集中サポートサービス後の自立の方が思ったより多く、短期のリハビリで効果が高いことに感心しました。
介護予防普及啓発事業	介護サービスではなく住み慣れた地域で顔見知りの人たちと関わりを持つ機会がたくさんあるので勧めてみたいと思いました。
吹田市民はつらつ元気大作戦	・地域の百歳体操やひろばで体操の活動を知っておきたい、担当の方に案内できたらと思っていたので、印象に残りました。
はつらつ元気大作戦	今後、この取り組みについてもっと広めていきたいと思っています
はつらつ元気大作戦	具体的活動が理解できたから
訪問型サービス・活動 A の延期	もともと、訪問介護のヘルパーとの業務内容の違いが明確ではなかったと思われる。簡単な研修を受けた半ボランティアな活動が地域で根付くのは難しく、事業所で両者を行うメリットがなく、ヘルパー不足の今、開始は困難と思われる。 高齢者が多いが、元気な人はすでに仕事や趣味を行っていて、新たに働いてくれる層をどこに見出すのが課題。
訪問型独自サービス活動 A	吹田市で訪問型独自サービス A の開始が延期になったとのことですが、集めたアンケートの回答が非常に的を得た物で、本当に貴重な大事なヘルパーさんをお手伝いさん扱いしたり、こだわりの強さですごくきっちりした掃除を求められたり、まだまだご自分でできる能力があるのにケアマネなどから「ヘルパーさんに頼んだ方が楽ですよ」とか「ご自分でできるけど安否確認も兼ねて」とかいった理由で依頼が入ることが少なくないです。この実際の現場の声をきちんと行政の方々は受け止めて欲しいと思います。
訪問型サービス	訪問型サービスを行うためには介護職員が必要ですが、今はどの事業所も高齢化や人員不足で、サービスを行うことすらできない現状です。人員を確保する方法が

	まずは必要だと思います。
訪問型サービス活動 A	ヘルパー利用をする前に、利用者の自立のため他の可能性について今一度よく考えようと思いました。
訪問型サービス A の延期	今後さらに人材確保が難しくなる中、必要な方へ必要なサポートができるような体制構築は喫緊の課題と思われるため
ヘルパー不足	訪問型サービス・活動 A の延期についてのアンケート調査結果を見て、やはり吹田市でもヘルパーさんの不足状況は深刻化していると感じました。予防は特に敬遠されます。ご本人だけでなくご家族もヘルパーさんを家政婦さんのように認識されていたり、元気になられた後サービスの卒業がなかなか出来なかつたりするので、十分な説明や代替案の提案などを今後も行っていきたいと思いました。
訪問介護事業所の人員不足について	併設している訪問介護事業所が、人員不足などの理由で今年度末で閉鎖となるため、印象に残りました。
訪問介護の人材不足について	人材不足は、吹田市だけの問題ではないが、やはりヘルパーをお手伝いさんと思っている人は、まだまだ多いと感じる。
通学路で旗	要支援の方でボランティアされている方のヘルパー利用にたいしての言葉。 大変な部分を助けてもらうことで社会参加ができているとおもいます。かがむ動作はできなくても立っての行動はできる状態だったのだろうと想像しましたが、生き甲斐のための行動がとれるなら介護保険使ったの支援をうけてはいけないのでしょうか、と感じてしまいました。文字にするのと、話していたときのニュアンスは違っていたのでしょうか。
本人のセルフケアマネジメント	要介護者の支援が増えており今後益々ケアマネ不足となることが予想されます。要支援者や事業対象者の方のプランを担当することが今後更に難しくなると思われるため、セルフケアプランができるようになれば良いと思いました。 ただ、その分包括さんの負担も増えますので大丈夫なのでしょうか。
通所型入浴サポートサービスが終了すること	7年度の変更点だから
通所型入浴サポートサービス終了	入浴ができない方等、入浴のニーズが減少していることに驚きを感じたため。
吹田市はケアマネジメント B は実施していない	吹田市で勤務するようになって日が浅く、吹田市の介護予防・日常生活支援総合事業について知識が浅いため、ケアマネジメント B がいないことを初めて知ったため。
ケアマネジメント A や C の強化のため、B の導入予定は検討していないこと。	上記のワード以外でもありますが、本人の意欲が低いケースがかなり多く、ケアマネジメント C が利用できる方や、短期集中にかけられるケースがかなり少ないですし、かけられたとしても、卒業出来る方が少ない印象です。 B の導入を希望する！という訳ではありません。C や短期集中の取り組み、はつらつ大作戦はとても良い取り組みです。ただ高齢者の意欲を高める支援が必要で、ケアマネのアセスメントや助言のみでは難しいと感じています。
生活支援コーディネーター	介護保険でない社会資源の活用が効果を出していると実感しているから。

生活支援コーディネーター	知らなかった
e コミマップ	実際に関覧してみましたが、各活動の予約状況等までわかりにくく実際使用しづらいように思いました。

【5】本日の研修会は、今後の業務に活用できそうですか

選択項目	回答数	割合
そう思う	23	52.3%
かなりそう思う	17	38.6%
あまりそう思わない	3	6.8%
そう思わない	1	2.3%
総計	44	100.0%

※特に業務の中で活かしたいと感じた内容について入力してください。

業務の中で活かしたいと感じた内容
<ul style="list-style-type: none"> ・「はつらつ元気手帳」というものがあることを介護予防の意識の高い方に、要介護認定を受けていなくても利用できる通所施設として、「街かどデイハウス」というものがあることを、65歳以上の方で一定の研修を修了すれば、施設や病院などでのボランティア活動ができることを、高齢者のための自費の家事援助や配食、配達等の生活サポート情報や、e コミマップで地域の集いの場を見つけることができることを、インフォメーションしていこうにしたい。ケア倶楽部の掲示板を見て、包括や社協主催の地域の催しがブロックごとに掲示されているので、定期的にチェックして興味のある催しに参加していきたい。 ・吹田市ケア倶楽部の掲示板に記載されている高齢者サポート事業 ・当デイサービスの役割としては短期集中サポートサービスにおける心身機能のサポートであるため、一人でも多くの地域高齢者の自立支援を図れるよう精進してまいります。 ・すでにこれまでに説明されてきた内容から大きく変わっていないと思われる。 ・これ以上担当をする事はできないので、少しでも支援する方を減らせるよう、この介護予防ケアマネジメントの在り方を活用できればと思いました。 ・要支援の方のヘルパーの使い方。 要支援の方にとって、買い物同行が、とてもいいリハビリになると思っているのですが、予防での買い物同行はなかなか事業所的にも難しいところがあるようです。訪問リハビリで買い物リハビリという方法もあるのでしょうか。 ・生活支援コーディネーターは今後、地域資源の活用の際に相談させてもらいたいです ・sc 生活支援コーディネーター 目的 主な業務を読んでもピンとこなかったのが具体的に実感できるようにしていき業務に活かしたいと思った。 ・ケアマネジャーやサービス事業所等に総合事業を理解してもらうことが今後の介護保険制度存続に係ると感じています。 介護予防は包括の仕事でしょ。と思われると日頃の業務の中で感じていたので今回の研修会を多くのケアマネジャー等に見て頂いていたのは、心強く感じました。 ・認知症施策についても、生活支援コーディネーターと連携しながら取り組んでいきたいと思えます。

- ・ヘルパー利用に際してはデイも併用してもらい体力をつけて、できる家事を増やしてもらうようにしていきたいと思いました。
- ・広報インセンティブの話が途中でありましたが、だから何？って思いました。
本当の意味での卒業であれば良いのですが、無理やりな卒業やサービスを受ける権利を取り上げる形になっていないかが気になります。他の研修で他市の事例などを聞いていても形だけに思うことが多いです。
- ・日々の相談の場面においても、困りごとや出来ないこと補うことに捉われず、前向きに生き生きと地域で生活できるような情報提供や提案を行ってきたい。
- ・インフォーマルなサービスを探して利用できる体制をどんどん作っていききたいです
- ・短期集中サポートサービスをより多くの方に周知できるようにしていきたいと思いました。
- ・フレイル予防のため吹田市民はつらつ元気大作戦を、ニーズのありそうな方にご案内しようと思いました。
- ・総合事業は通所や訪問型という印象が強いですが、はつらつ元気大作戦も総合事業に含まれていることを再確認しました。このような地域資源は高齢者の方に是非利用してほしい、情報提供するのですが、なかなか本人の意欲が低く、繋がらないことが多いです。より積極的に勧めていけるように、努めます。
- ・ご本人の意思に沿い、一緒に自立を目指せるようプランを作っていきたいと思いました。
- ・地域の社会資源の活用。
- ・介護予防普及啓発活動やいきいき百歳体操について、要支援や事業対象者にもう少し案内していこうと思いました。
- ・介護保険のサービス以外の社会資源について、常日頃から情報収集や共有する事で、高齢者の社会参加の促しや介護予防に取り組んでいきたいと思います。
- ・地域の集いの場について e コミマップというのを知れたので、活用したいと思います。
- ・はつらつ元気大作戦についてさらに良く分かりました。
- ・はつらつ元気大作戦の介護予防活動についてもっと周知していく必要がある。
- ・多様な制度、また制度に限らない支援を組み合わせ、地域の高齢者が自立して生活できるよう支援していきたい
- ・すいた年輪サポートナビについて、情報掲載など提供できるように努めたい。
- ・今後、訪問型サービス A に関して、どこまで活用できるのか。
- ・吹田市の OT をもっと活用していきたい。
- ・ケアプラン作成にあたり 自立支援を考えて行く
- ・上記でも記載した通り、介護予防に対する取り組みにつなげていく事で少しでも要介護状態になるのを防げたいと思います。
- ・自立支援に向けて、できることに目を向けたケアマネジメントに取り組みたいです。
- ・選択の幅がひろがることを利用者に伝えることができる

【6】介護予防・日常生活支援総合事業の取組にあたり、御質問等ありましたら入力してください。

御質問等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防ケアマネジメントの在り方として、多様な選択肢の組み合わせとありましたが、基本的にケアマネさんは介護保険のサービスを利用者様に利用してもらわないと介護報酬が入ってこない、地域の集まりや移動販

売車の利用などを勧めてそこをケアプランに落としとしても、介護サービスの利用がなかったら介護報酬が入らないのでは意味がないでしょう。

その為、特に必要もない福祉用具のレンタルやヘルパーさんに買い物や掃除といった不要な介護サービスの導入に繋がるのではないかと思います。多様な選択肢で介護サービス以外のサービスだけでケアプランを作成しても介護報酬が発生するようにすべきだと思います。

- ・ 訪問看護からのリハビリについて、1年過ぎると減算になる事での動向注意点など
- ・ 令和3年12月～ケアマネジメントCが居宅への委託を開始したとの事であるが、実際居宅でケアマネジメントCを作成している事業所はあるのでしょうか。
- ・ 資料に記載されている訪問介護事業者を対象としたアンケート調査において、居住系サービス併設の事業者とそれ以外の事業者を分けて集計することは可能でしょうか。
- ・ SC（生活支援コーディネーター）は社協に委託しているという説明でしたが、社協の行うCSW（コミュニティソーシャルワーカー）との違いがよくわかりません。違いについて教えてください。
- ・ 要介護認定を受けていない方などが利用する通所施設の「街かどデイハウス」についてですが、吹田市高齢者安心・自信サポート事業の通所型サポートサービスや、介護保険の通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）などの通所サービスとの違いについて教えてください。
- ・ すいた年輪サポートなどでケアマネの空き状況などを確認していると、予防プラン受け入れ不可の事業所がとても多く、要支援の方でケアマネが見つからないとの話をよく聞きます。うちの事業所でも、できる限りの努力はしているつもりですが、報酬、手間、担当件数、ケアマネのスケジュール負担等のこともあり、対応に困ることもあります。

予防プランのケアマネ難民ともいえるこの問題。どうにかならないものでしょうか。

- ・ P. 52 訪問介護事業者を対象としたアンケート調査の意見抜粋について

「ヘルパーによる対応の必要性についてケアマネが見極め」と記載していました。

実際に、ADLが向上してヘルパーの回数を減らしていく方向で話をしたときに、利用者からヘルパーの回数を減らすことに不満が出て、もめたことがあります。一旦サービスを利用し、便利さを感じてしまうと、なかなかそこから離れられない利用者もいるので、この文章を見て、「理想はそうだが、実際は難しいな」と感じました。

訪問介護が人手不足ですが、ケアマネも人手不足です。

ケアマネ不足に対して、吹田市ではどのように今後対応していくのか知りたいです。

サービス希望した利用者「あなたはできるから、このサービスは必要ないですよ」と言うのは果たしてケアマネだけでいいのでしょうか？例えば寝屋川市（確か大東市もだったかと）は、要支援の認定を受けても、医療系サービスを希望する場合は、包括や市役所の面接→サービスの必要性を確認→サービス利用という流れになっており、自治体の許可がなければサービスを利用できないようにしています。安易なサービス利用を防ぎ、結果としてケアマネ不足の対応の一つになっているそうです。「あなたは介護保険サービスではなく、地域の〇〇サービスを利用したらいいですよ」と勧められる役割は、自治体でできないのでしょうか？

* 今回の研修とは話がずれているかも？ですが、一度聞いてみたかったので記載させて頂きました。

- ・ 吹田市はつらつ元気大作戦の中で、いきいき百歳体操やはつらつ体操教室、脳いきいき教室、ひろば de 体操に参加された方の、体力測定などのデータを集積されていると思います。

基本属性や筋力やバランスなどの体力、認知機能など年代別平均値や変化といった、心身機能に関するデータをまとめたものがありましたら教えてください。吹田市の高齢者の標準的な体力を知ることで、日頃の生活機能

向上サービスの中でも活かしていけると思いますので、よろしくお願いいたします。

もしまとまったデータがないようでしたら、今後、データの取りまとめや公表の予定を教えてください。

【7】その他、ご意見や感想がありましたら入力してください。

意見、感想等

- ・吹田市における高齢者支援の取り組みが理解できました。まだまだ知らない社会資源があると感じました。令和6年度の変更点の振り返り等、改めて再確認出来る機会になりました。
- ・予防の方は、元気になれば介護保険のサービスから卒業出来ることを、声高に発表しても良いのではないだろうか。あらゆる分野での人手不足や、年金が減額されるかもしれない昨今、自助努力が求められている。現在サービスを受ける方の大半が、そのサービスを受けることで、元気に過ごしていられると感じておられるが、これからは、サービスが必要な方には、きちんと提供できるようにどう考えるかが課題と思われる。介護保険卒業のためには、生活のモデルなど、どう生活するのかを描けるような、他に利用できるサービスの紹介や、ケアマネジャーではない相談者が必要と思われる。又、雑多な代替サービスの把握も必要となる。SCさんに頑張って頂きたい。
- ・わかりやすい説明でした。
- ・介護予防について高齢者本人が興味や自分の事として考えてもらえるように、包括支援センターとして高齢者がどんなことに興味を持ってどのように暮らしていきたいのか、もっと知って行く事が必要だなと感じました。包括支援センターの周知も幅広い世代に向けて発信し、地域で高齢者の暮らしを支えていきたいと思いました。相談窓口でも、丁寧な説明に心掛けて、元気を取り戻せるフレイルの状態の方を見落とさないように今日の研修を活かしていきたいと感じました。
- ・自立支援が大切だと思いますが、介護保険を一度利用すると離れることが難しいのが現状です。また適切なアセスメントをしてヘルパーを利用する必要がないと判断して利用者に伝えても健康保険同様に国民皆保険である限り「高い介護保険料払っているんだから」「使わないと損」という考え方から納得される方はほとんどいないと思います。もっと国や市から介護保険の認定を受けたからといってサービス利用できるわけではないこと、ケアマネジャーの判断で利用できないことがあることを周知すべきだと思います。ヘルパー不足はケアマネのアセスメント不足や上記理由以外にも介護報酬の引き下げが大きく影響していると思います。
- ・ヘルパー不足に言及があり、生活支援の利用の際の見極めは今後必要になると思われるが、現在の利用可能な状況でケアマネ判断とされるのは納得がいかない。
- ・ヘルパーについてお手伝いさん扱いではなく、ヘルパーによる対応の必要性についてケアマネが見極め説明すべきということについては、国や府、吹田市の全てが現状利用できるサービスとしている限りケアマネが利用制限することは難しく思います。
ケアマネが積極的に利用を勧めているわけではなく、利用したいから申請をしている利用者に対して利用すべきではないと言えません。
申請段階でヘルパーの利用制限をするシステムにしなければ難しいと思います。
- ・訪問型サービス活動 A を導入してほしいです。

- ・通院に困っておられる方が多いと思うので、通院しやすくなるサービスがあれば助かります。
- ・街かどデイサービスについて、冊子「やさしい介護と予防」の中では介護保険以外のサービスとして記載があり、いつから吹田市民はつらつ元気大作戦の取組になったのかな？と感じました。
- ・ひろば de 体操、午後の部あれば良いと思います。短期集中のみ教室ができればと思います。
短期集中卒業後も機械を使った運動できる場があればと思います。
短期集中卒業後にボランティアとして活動に参加できる場があればと思います。
- ・包括に寄った際、ひろばで体操などの案内の資料をいれているところからいただくことがあるのですが、吹田市全域もしくは地区ごとの冊子があると助かるな、と思います。気軽に地域の活動に参加してもらえるように地域の社会資源の理解を深めていきたいです。
- ・今回のオンラインでもありましたが、本庁のネットワーク回線が不安定で、音声が届き途切れ途切れになったり、映像が止まったりすることがありました。（順調に繋がっている時もあるのですが）質疑応答の際、どの事業所さんを指名されているかわからず、最初に当てられていた事業所さんは戸惑っていたかと思えます。ネットワークの改善をお願いいたします。
- ・音声の一部聞き取りにくかったです。
- ・電波が悪く良く聞こえない部分がありました。